

DESIGN_1

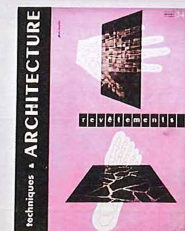
JEAN PROUVÉ CONSTRUCTIVE IMAGINATION

ジャン・プルーヴェ展 椅子から建築まで

マスターピースで伝える、
ジャン・プルーヴェの魅力のすべて。

Photo_Masanori Keneshita text_Takahiro Tsuchida
editor_Kazumi Yamamoto

099



MODERN DESIGN

見逃せないデザイン展

モダンデザインの源流を探る2つの展覧会。

ジャン・プルーヴェは自らを「構築家」と呼んだ。
フィン・ユールの椅子は「彫刻のような椅子」と評されている。
哲学は違えど、共通するモダンデザインの“美”を発見したい。

東京 清澄台河

ジャン・プルーヴェ展 椅子から建築まで

@東京都現代美術館
Jean Prouvé: Constructive Imagination
Museum of Contemporary Art Tokyo

20世紀半ばのフランスで活躍し、数多くの家具や建築を手がけたジャン・プルーヴェのデザインを振り返る展覧会。パリのギャルリ・パトリック・セガンなどの協力により、希少価値の高いオリジナルピースのみで構成されている。●(東京都現代美術館)東京都江東区二好4-1-1 ☎050-5541-8600 (ハローダイヤル)。～10月16日。10時～18時。月曜休。入場料2,000円。

一見、似たような椅子でも、素材やディテールに違いがあるのがプルーヴェのデザインの特徴。熟練ごとに工夫を凝らし、常に新しい可能性を追求していたのだ。



《F 8×8 BCC組立式住宅》は戦時中の資材難を反映した木造の建物。中央に見える逆V字形の柱はボルティークと呼ばれ、ブルーヴェが1939年に特許を取得している。

1 《F 8×8 BCC組立式住宅》は建築家のピエール・ジャンヌシとの共作で、5人家族用の木造住居として1942年に設計された。分解や組み立てが容易な構造を採用。2 44年設計の《6×6組立式住宅》のパーツ。《F 8×8 BCC組立式住宅》に比べて金額が多用された。3 49年の《メトロポール》住宅は、鋼鉄とアルミニウムを用いたプレファブ式住宅で15軒のみ建てられた。4 《メトロポール》住宅（プロトタイプ）も一部が組み立てて再現されている。5 パーツをフラットバックでアメリカへ送り現地のカンパ材も用いて製作された50年代の椅子やテーブル。6 50年代に学生寮などのためにデザインされた家具。

2 1
4 3
6 5

スケールを超えてデザインを貫く美しい合理性。



©ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 ©2022

家

具デザイナーとして

また建築の作り手として、広く活躍したジャン・ブルーヴェが他界したのは1984年。ル・コルビュジエはじめ有名な建築家にも勇気認められたブルーヴェだが、その偉業はやがて世の中から忘れかけた。しかし90年代初め、一部の家具コレクターが彼に注目し始める。アメリカ在住のアートディレクター、八木保もそのひとりだった。今回のブルーヴェ展を企画したのが、八木とその友人のバトリック・セガン。セガンはパリのギヤラストで、ブルーヴェ作品の圧倒的なコレクションを所有する。同じく世界的コレクターである湯代芸術振興財団の前澤友作も協力し、今回の展覧会が構成された。

こうした経緯を持つ展覧会だから、過去のブルーヴェ展とは一味違う。まず心惹かれるのは代表作《スタンダードチェア》をはじめとする椅子のバリエーション。力のかり具合を踏まえた革新的なプロポーションは今なお新しい年代ごとの素材、仕上げ、色合いなどの細かな改良も、実物を見て初めて理解できる点も多い。展覧会後半では、同様の創意工夫が建築にも発揮されたのがわかる。今《8×8 BCC組立式住宅》は構造やディテールに家具と共通する要素がいくつもある。基礎が必要で、分解や組み立てが繰り返可能な仕組も斬新だった。このビュアな合理主義こそブルーヴェのデザインに一貫するものだ。家具はもろく建築についても実物を展示しているのが、この展覧会の大きなポイント。鑑賞よりも体感するために訪れたい。